

男女共同参画推進委員会（JES We Can）便り 2018年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、（新）：新委員
支部代表以下は五十音順

【北海道支部 第18回北海道支部学術集会】

開催日：2018年11月11日（日）

会場：星野リゾート OMO7 旭川

会長：清水 力（苫小牧保健センター 副センター長）

企画：

①JES We Can 企画セミナー「女性医師のワークライフバランスを考える」

演者：馬場 菜月（北海道大学病院内科 II）、飛驒 陽子（飛驒内科クリニック）、
伊古田 明美（勤医協中央病院内科）

座長：村下 眞理（むらしたこどもクリニック）、

滝山 由美（旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野）

②第1回 JES We Can 北海道支部賞受賞講演

受賞者：宮 愛香（北海道大学大学院医学院・医学研究院 免疫・代謝内科学教室）

座長：滝山 由美（旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野）

平成30年度北海道支部学術集会は、会長 清水 力先生の御高配で、虎ノ門病院小児科 伊藤 純子先生の特別講演「小児期発症間脳下垂体腫瘍患者の術後管理：長期管理・トランジションも含めて」もあり、多くの女性医師の講演の機会を頂きました。また、JES We Can 北海道支部賞は、先行して支部賞を設けられ第3回を迎えていらっしゃいました九州支部の佐藤 薫先生の御協力のもと、準備を進めることができました。この場を借りて、深謝申し上げます。記念すべき第1回北海道支部賞は、



2018年出版の first author 2編、coauthor 1編の英文論文の御業績を以って、北海道大学 宮 愛香先生に授与されました。宮先生は、大学院に入学し更なる御研究を進められるそうです。今後の女性医師皆様の益々の御発展を祈念して、北海道開拓の父クラーク博士に倣いました結びの言葉を持って、今年度の支部報告といたします。“Girls, be ambitious.”

（写真中央：宮 愛香先生、写真右：北海道支部長 櫻井晃洋先生、写真左：報告者）。

委員氏名：○○滝山由美、村下眞理、（新）中村明枝、（新）宮 愛香

【東北支部 第36回東北支部学術集会】

開催日：2018年4月21日（土）

会場：東北大学医学部開設百周年記念ホール・星陵オーディトリウム

会長：佐藤 文俊

（東北大学大学院医学研究科 難治性高血圧・内分泌代謝疾患地域連携寄附講座）

企画：女性会員が企画するセミナー

講演タイトル：「産婦人科領域における内分泌疾患患者の対応」

演者：栗岡 裕子(島根県立中央病院 母性小児診療部長)

座長：緑川 早苗(福島県立医科大学 医学部 放射線健康管理学講座 准教授)

第36回 東北支部学術集会では、「内分泌内科医と産婦人科医との連携を円滑にするために産婦人科領域における内分泌疾患患者の対応法について勉強したい」とのJES We Can 若手メンバーからの要望を取り入れ、「産婦人科領域における内分泌疾患患者の対応」について、JES We Can メンバーの一員である栗岡裕子先生に御講演をお願いいたしました。実際に先生が御経験された症例を交えながら御講演いただきましたが、日常臨床で浮上する教科書に載っていないような状況に対応するコツが随所に見られ、大変勉強になりました。内分泌疾患をもつ患者が妊娠を希望する場合、「内分泌学に精通した産婦人科医」との出会いが重要であることを強く感じました。本セミナーの開催に際しお世話になりました方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

委員氏名：〇〇桜井華奈子、石亀敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

【関東甲信越支部 第19回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2018年9月7日(金)～8日(土)

会場：中野セントラルパークカンファレンス

会長：長谷川 奉延(慶応義塾大学医学部 小児科学教室)

企画：女性医師研究支援企画 女性会員企画セミナー

講演タイトル：Men's Health, 小児から成人まで

演者：深見 真紀(国立成育医療センター 分子内分泌研究部)

堀江 重郎(順天堂大学 大学院医学研究科 泌尿器外科学)

座長：北中 幸子(東京大学医学部附属病院 小児科)

福田いずみ(日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科)

2018年度は近年注目されている話題の一つであるMen's Healthについて取り上げました。会長の長谷川奉延教授が小児科ということもありMen's Health といっても成人期のみにとどまらず、ヒトの性分化は胎生期から開始するというのも意識し、まずは深見真紀先生に小児科医のお立場から、次に堀江重郎先生に泌尿器科医のお立場からのご講演をお願い致しました。60分間のセッションの中で、前半は深見真紀先生より“遺伝子から見たMen's health”というテーマでお話し頂きました。深見真紀先生の研究グループでは性分化疾患や生殖機能障害の検体を集積し遺伝子解析や疾患成立機序の解明に取り組んでいらっしゃるということで、当日はその成果に加え近年の海外からの報告もReviewして下さいました。女性の体中の一部の細胞にY染色体が存在する、またその逆もあるというMicrochimerismという現象について、あるいは健常男性では加齢とともに体細胞中のY染色体の消失が生じ、その度合いは発がんリスクや寿命とも関連するといった興味深い知見を示して下さいました。

後半は堀江重郎先生より“実は知らないテストステロンの役割(Men's health update)”というテーマで、テストステロンがいかにヒトの行動、メンタル、寿命などに深くかかわるかということをお話頂きました。手指の形態が男性ホルモン活性を反映するというくだりではご自身の手を眺めるフロアの先生方が続出するなど、会員の先生方も大変興味をもって講演を聴講されている様子が見られました。

最後になりましたが本企画をプログラムに組み入れて下さった会長の長谷川奉延先生に深謝申し上げます。

委員氏名：◎◎福田いずみ、井下尚子、(新)岩部美紀、小澤直子、片井みゆき、方波見卓行、北中幸子、鈴木眞理、田島敏広、田辺晶代、中島康代、波多野雅子、深見真紀、藤田 恵、堀川玲子、山口実菜

[北陸支部 第18回北陸支部学術集会]

開催日：2018年11月10日(土)

会場：金沢大学医学類キャンパス 十全講堂

会長：篁 俊成(金沢大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学分野)

企画：女性医師企画コーナー「～臨床医のための～内分泌症例セミナー」

講演タイトル：免疫チェックポイント阻害薬により誘発された破壊性甲状腺炎

受賞者：入内島千晶先生(富山県立中央病院 研修医)

表彰式進行：竹下有美枝(金沢大学附属病院内分泌代謝内科)

優秀賞授与式：篁 俊成会長から表彰状ならびに賞品(旅行券)

受賞講演座長：中川 淳(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科)

朴木 久恵(富山大学 糖尿病・代謝・内分泌内科)

JES We Can 北陸での本企画は5回目となりました。篁俊成当番会長のもと7月14日に金沢大学病院内にて事前審査委員会を行いました。学会評議員、内分泌代謝科専門医のみならず、若手医師、研修医など約40名が参加し、女性医師がエントリーした8演題に対して活発な質疑応答やアドバイスをを行った後、参加者皆で最優秀演題を選出しました。

11月10日学会当日の最優秀賞授与式に引き続いての受賞講演は、皆があらためて免疫チェックポイント阻害薬を学ぶ良い時間となりました。受賞者の入内島千晶先生は、事前審査会直後に内分泌代謝学専攻を表明してくれました。昨年の受賞者に引き続きの快挙です。

本企画は女性のみならず多くの若手医師に内分泌代謝学の魅力を伝える機会になってきたと感じます。ご協力いただいた中川淳先生は今回JES We Can 委員に就任されました。益々パワーアップし内分泌・代謝領域の発展に寄与できるよう活動したいと思います。

委員氏名：◎白田里香、○竹下有美枝、(新)中川 淳



2018/11/10 金沢市市民会
第18回日本内分泌学会北陸支部学術集会女性医師企画
【～臨床医のための内分泌症例セミナー～】特別賞
事前審査会

日時：2018年7月14日(土) 13:00～16:00
場所：金沢大学附属病院内 4F CPDセンター
連絡先：金沢市宝町13-1
TEL(0776)265-2234

開催宣言：第18回日本内分泌学会北陸支部学術集会会長 篁 俊成
金沢大学包括的代謝学

座長：金沢医科大学 糖尿病内分泌内科学 中川 淳

1. スズロロドニチニによる認知症、筋力の著明な改善を得た成人発症 AGTH単独発症症の一例
金沢大学附属病院 内分泌・代謝内科 海古井由佳
2. 慢性動脈硬化症が疑われる腹部内出血で死亡したCushing病の一例
金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学 水沼有美子
3. 薬物治療抵抗性の甲状腺グリブゼンに対して手術治療を行った一例
富山大学 第一内科 藤内麻子
4. 免疫チェックポイント阻害薬により誘発された破壊性甲状腺炎の3例
富山県立中央病院 内科 入内島千晶
5. 診断：抽出に至るまで5年を要した縦隔内異所性副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症の一例
富山県立中央病院 内科 高橋明子
6. ¹²⁵I-MIBGシンチグラフィで陽性増色細胞腫の1例
富山県立富山市民病院 内科 清水暎子
7. ニボルマブ投与後に副腎不全と副症1型糖尿病を併発した1例
石川県立中央病院 糖尿病・内分泌内科 伊藤直子
8. SU薬による重症低血糖に対してオクトレオチド投与が奏効した高齢者糖尿病の一例
北陸中央病院 内科 中屋雅子

第18回日本内分泌学会北陸支部学術集会
日本内分泌学会女性医師会共同開催委員会(JES We Can)北陸支部

表彰状

入内島千晶殿

演題：免疫チェックポイント阻害薬により誘発された破壊性甲状腺炎の3例

あなたは日本内分泌学会北陸支部女性医師企画第5回『～一般臨床医のための～内分泌症例セミナー』賞に上記応募され最優秀演題に選定されましたよってその功績をたたえ今後の一層の飛躍を期待して表彰いたします

平成30年11月10日

第18回日本内分泌学会北陸支部学術集会
当番会長 篁 俊成

[東海支部 第18回東海支部学術集会]

開催日：2018年10月14日(日)

会場：三重県総合文化センター 男女共同参画棟

会長：矢野 裕(三重大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科)

企画：第8回 JES We Can Tokai 企画セッション

講演タイトル：免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能低下症、甲状腺機能異常症の特徴と発症機構

演者：岩間信太郎(名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科)

座長：中嶋 祥子(市立四日市病院 糖尿病・内分泌内科)

本企画8回目となる今回は、名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 岩間信太郎先生をお招きして「免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能低下症、甲状腺機能異常症の特徴と発症機構」についてご講演いただきました。折よく、2018年10月1日にがん細胞にかかわる免疫チェックポイント分子の発見とそれによるがん治療法の確立に対してノーベル医学生理学賞の受賞が決定したときであり、免疫チェックポイント阻害薬使用症例が増加するにつれて免疫関連有害事象(irAEs)の発生も増えると予想されるなか



でのセッションでした。

岩間先生には、基礎的な話から始まり、免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象の臨床的特徴や発生時の対応、発症機序の解明の現状についてなど、他科と連携するうえでも必要な知見をたっぷりご教授いただきました。ご講演後には参加会員の皆様とも関連な討論となり、おかげさまでセッション後のアンケートでも皆様より大変満足とのお声をいただくことができました。ご講演いただいた岩間先生、ご参画いただきました多くの皆さまに心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、本セミナー開催につきサポートしてくださいました会長の矢野 裕先生にこの場を借りまして深謝申し上げます。

委員：◎脇 昌子、赤羽貴美子、草田典子、東村博子、○中嶋祥子、村上雅子、山本眞由美
(新)山守越子

[近畿支部 第18回近畿支部学術集会]

開催日：2018年10月13日(土)

会場：ピアザ淡海

会長：前川 聡先生(滋賀医科大学糖尿病内分泌内科)

企画：JES We Can 企画講演

講演タイトル：「生殖機能制御の神経内分泌メカニズム」

演者：東村 博子先生(名古屋大学大学院生命農学研究科)

座長：井上眞由美(甲子園大学栄養学部栄養学科)

三浦 晶子(洛和会音羽病院内分泌内科)

今回、近畿支部の JES We Can 企画では名古屋大学の東村博子先生にご講演いただきました。

申すまでもなく、東村先生は内分泌学会の中枢におられ、私たち女性会員をリードしてくださっています。先生の最先端のご研究内容である生殖医学についての大変勉強になるお話、さらに名古屋大学副理事として男女共同参画を牽引してこられた経緯についても大変貴重なお話をしてくださいました。

東村先生のテンポ良く、歯切れの良いご講演スタイルに、会場の聴衆全員が吸い込まれるような雰囲気、とてもエキサイティングな時間をすごさせていただきました。

東村先生、どうもありがとうございました！

委員：◎加藤純子、浅原哲子、位田 忍、○井上真由美、島津 章、新谷光世、高橋路子、藤本美香、三浦晶子、道上敏美

【中国支部 第19回中国支部学術集会】

開催日：2018年8月25日(土)

会 場：米子コンベンションセンター BiG SHiP

会 長：谷口 晋一(鳥取大学医学部地域医療学講座 教授)

企 画：JES We Can・第19回中国支部学術集会共同企画パネルディスカッション

講演タイトル：内分泌疾患の手術を円滑に行うための診療科連携

演者：三好 智子

(岡山大学医歯薬総合研究科附属 医療教育センター/岡山大学病院 卒後臨床研修センター)

木下 康之(広島大学大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学)

正木 千恵(伊藤病院 外科)

岩本 秀人(鳥取大学医学部 腎泌尿器学分野)

座長：黒崎 雅道(鳥取大学医学部 脳神経外科学)

伊澤正一郎(鳥取大学医学部 病態情報内科学分野)

第19回中国支部学術集会会長の谷口教授にご高配いただき、JES We Canとの共同企画として、女性医師として第一線で活躍されている先生を演者に加えたパネルディスカッションを開催しました。本セッションは、今回の学術集会の実務を担当され、中国支部の若手のホープの一人である伊澤正一郎先生が企画、運営を担ってくださいました。

内分泌疾患の手術療法における多診療科の連携について、実臨床で疑問に感じていることを直接該当科の専門家にきける貴重な機会として、活発な議論がなされました。

委員：◎栗岡裕子、三好智子、○山内美香



委員：◎栗岡裕子、三好智子、○山内美香

【四国支部 第18回四国支部学術集会】

開催日：2018年9月1日(土)

会 場：徳島大学 藤井節郎記念医科学センター

会 長：福本 誠二

(徳島大学 先端酵素学研究所 藤井節郎記念医科学センター 分子内分泌学研究分野)

企画：女性医師セミナー

講演タイトル：甲状腺日常診療のコツ

演者：坪井久美子(東邦大学医療センター大森病院 糖尿病・代謝・内分泌)

座長：吉田守美子(徳島大学大学院医歯薬学研究部血液・内分泌代謝内科学)

甲状腺疾患は女性に多いため、特に女性内分泌医からは甲状腺疾患を学びたいという声が多く聞かれます。甲状腺の診療には成書やガイドラインには書かれていない「コツ」が必要であり、経験豊富な先生から診療の実際を拝聴することは非常に貴重な機会です。そこで今回、御高名な坪井先生に特別講演をお願いしました。講演では、実際の患者さんのデータを提示されながら、バセドウ病の抗甲状腺薬やヨウ化カリウムの調整方法など、多くの経験から生み出された診療のコツを惜しみなく教えてくださいました。今まで抱えていた素朴な疑問にも丁寧に答えていただき、会場の先生方みなさんが甲状腺の面白さや奥深さを再認識したことと思います。また講演終了後も夜遅くまで甲状腺のトリビアを若い先生方に伝授していただき、本当によい思い出になりました。

委員氏名：◎井町仁美、○吉田守美子

[九州支部 第18回九州支部学術集会]

開催日：2018年8月25日

会場：九州大学医学部百年講堂

会長：田中 良哉 教授(産業医科大学第1内科学講座)

企画：JES We Can 九州支部賞の受賞者の表彰&講演

座長：的場 ゆか 先生(九州医療センター代謝内分泌内科)

九州支部は2016年より女性医師による優秀論文を表彰するJES We Can九州支部賞を設けており、今年度で第3回目となります。2018年8月25日、九州大学医学部百年講堂で開催されました第18回日本内分泌学会九州支部学術集会(会長 産業医科大学第1内科学講座 田中良哉教授)において、午後の30分の枠をいただき、的場ゆか先生(九州医療センター代謝内分泌内科)座長の下、受賞された以下の3名の先生方にご講演をしていただきました。

1) 上村美美先生 産業医科大学第一内科

「Relation between hypoglycemia and glycemic variability in type 2 diabetes patients with insulin therapy. A study based on continuous glucose monitoring」

2) 柳田育美先生 牟田病院内分泌糖尿病内科/福岡大学内分泌糖尿病内科

「Low HbA1c levels is associated with severity of frailty in Japanese elderly diabetes」

3) 岩屋智加予先生 福岡大学内分泌糖尿病内科

「Exendin-4, a Glucagonlike peptide-1 receptor agonist, attenuates breast cancer growth by inhibiting NF-κB activation」

女性医師のみならず、若手男性医師にとっても研究意欲に拍車をかけるすばらしい講演でした。また、今年度の九州支部学術集会では会長の田中良哉教授のご意向で、一般演題の座長を全員、女性医師が担当しており、女性医師の層の厚みが増してきていることも実感できたと思います。

委員：◎◎明比祐子、佐藤 薫、伊達 紫、花田礼子、(新)増山律子、(新)松田やよい、
(新)的場ゆか、三宅育代、山本幸代